

# 丸山雷蔵

まるやま・らいぞう

松永商工会議所会頭(初代)

## 経歴

生:明治43年(1910年)6月14日、広島県沼隈郡松永町(現福山市松永町)生まれ

没:昭和41年(1966年)、享年56歳

昭和4年(1929年)	18歳	広島県立福山誠之館中学校卒業
昭和7年(1932年)	21歳	山口高等商業学校を卒業
昭和7年(1932年)	21歳	丸山木材興業製作所
昭和13年(1938年)	28歳	製塩業
—	—	松永町公安委員
—	—	松永塩工業組合理事長
—	—	松永町教育委員
昭和22年(1947年)	37歳	丸山木材興業製作所社長
昭和25年(1950年)1月～ 昭和31年(1956年)8月	40～ 46歳	松永化学工業株式会社社長
昭和31年(1956年)3月～ 昭和41年(1966年)5月	45～ 55歳	松永商工会議所会頭(初代)

## 生い立ちと学業、業績

広島県沼隈郡松永町(現福山市松永町)に2代目丸山茂助・ナカの長男として生れる。  
大正13年(1924年)、福山誠之館中学へ入学。  
成績も優秀であったがスポーツも万能で、特に陸上競技の選手として活躍した。

昭和4年(1929年)山口高商(現山口大学)に入学。  
卒業と共に、家業である木履製造丸山茂助商店に入社した。  
父を助けて、製材業・製塩業も経営し、事業を拡大した。

戦中・戦後の物資不足、物価統制の時代を経て、昭和22年(1947年)、父の死去にともない、丸山木材興業製作所社長となる。

中国澱粉化工株式会社を創立し取締役社長に就任、松永町議会議員、福山商工会議所理事、松永町公安委員、松永塩業組合組合長、松永化学工業株式会社(現・マナック)取締役社長、松永商工会議所初代会頭をつとめる。

昭和30年(1955年)は下駄産業のピークで、松永全体で全国の下駄生産の60%、5600万足を記録したが、この年を境に需要は急激に減っていく。

方向転換を余儀なくされ、ケミカルサンダルの製造にのり出す。

しかし、創業[明治11年(1878年)]から100年間は下駄も作り続ける方針を貫く。

昭和35年(1960年)には塩田も廃止となり、松永市は経済的・社会的にも変革の時代を迎える。

商工会議所の会頭として松永市の舵取りにあたり、温厚な人柄とリーダーシップで乗り切っていくが、昭和41年(1966年)急逝。

その日は奇しくも松永市と福山市の合併の日だった。

家業は長男の丸山茂樹がついだ。

一族では、丸山鶴吉が誠之館にかかわる。 鍋島喜八郎(昭和28年卒)

出典1:『政治産業文化備後総合名鑑』、98頁、式見静夫編、備後文化出版社刊、昭和34年9月

2005年5月31日更新:関連資料●2006年6月30日更新:タイトル●2007年12月4日更新:経歴●2008年7月29日更新:本文●2010年11月1日更新:出典●